

動物

の

診察室

から

○ 53 ○

コーギー犬の「クッキー君」は14歳の男の子です。元気も食欲もあるのですが、後ろ足が麻痺してしまい、立つことができません。

診断は犬種、症状、そして、その他の病気を除外して診断します。クッキー君をいつも世話してくれるのは、クッキー君の大好きなおばあちゃんです。お母さまも時々手伝ってくれます。クッキー君は前は体重が

初は軽度の麻痺で、内服薬の投与で治療をしていましたが症状の改善はありませんでした。

クッキー君は11歳くらいから、少しずつ後ろ足の麻痺が始まり、徐々に進行していきました。最初は軽度の麻痺で、内服薬の投与で治療をしてい

献身的な介護で清潔に

「いい子いい子、大丈夫だよ」と頭をなでてあげま

おばあちゃん、ありがとう！

クッキー君の病気は、「変性性脊髄症」と考えられました。この病気は10歳くらいから少しずつ後ろ足の麻痺が始まり、結局、立てなくなっ

てしまいます。シエバー犬や、コーギー犬に見られ、今のところは、治療で回復することはありま

一時期、尿がうまく出

ないときも、おばあちゃんはおなかに手を回すとすぐに便が出てしまいま

あるため、クッキー君の肛門がめくれてしましました。でも、おばあちゃん「クッキー、いい子だね。がんばろうね」と言って、クッキー君のお尻に薬を塗ってあげます。そして、汚れたところはきれいに洗ってあげるので、そんな介護のおかげで、立てなくなって2年が過ぎますが、床ずれもありません。また、夜はわんわんと鳴いてしまうこともよくありますが、おばあちゃんはおばあちゃんを叱ることはせずに、



いつもきれいにしてもらっているクッキー君

